令和７年度　全国学力・学習状況調査結果　分析と考察

Ⅰ　調査内容

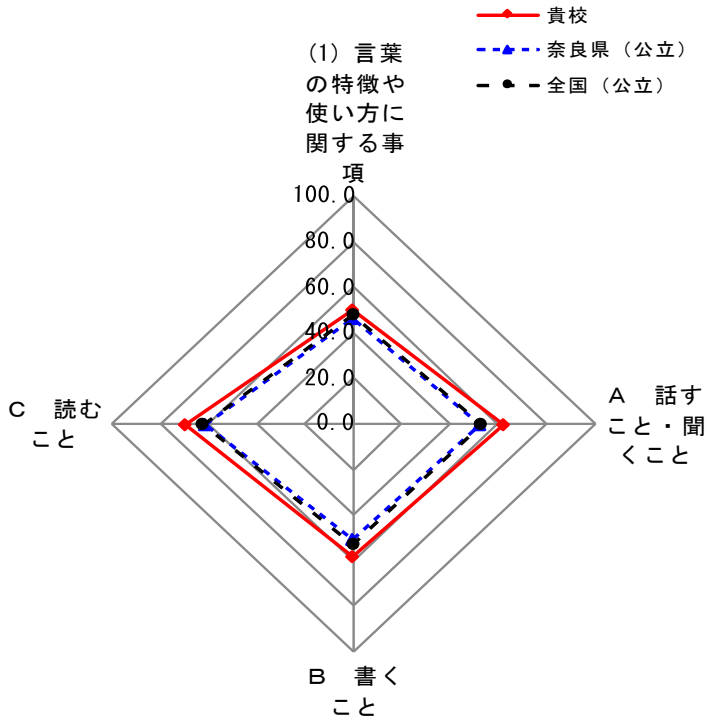
① 教科に関する調査（国語、数学、理科）

② 質問紙調査
- 生徒に対する調査
- 学校に対する調査

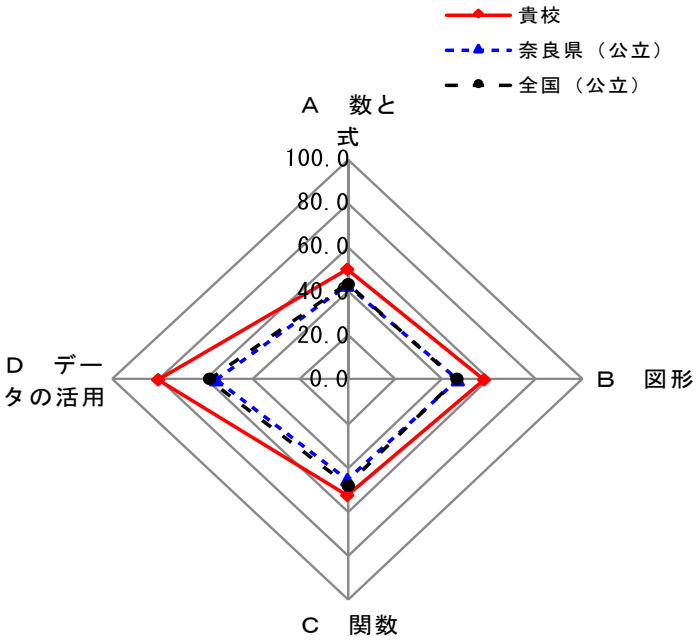
２　教科に関する調査結果の概要

令和7年度 全国学力･学習状況調査グラフ

		本 校	奈良県	全国
	全体	61	53	54.3
国語	言語	50	46.6	48.1
	話す･聞く	62.5	52.2	53.2
	書く	58.3	50.6	52.8
	読む	69.4	61.1	62.3



		本 校	奈良県	全国
	全体	59	47	48.3
数学	数と式	50	42.9	46.5
	図形	58.3	46.9	48.2
	関数	52.8	45.4	48.2
	データの活用	80.6	56	58.6

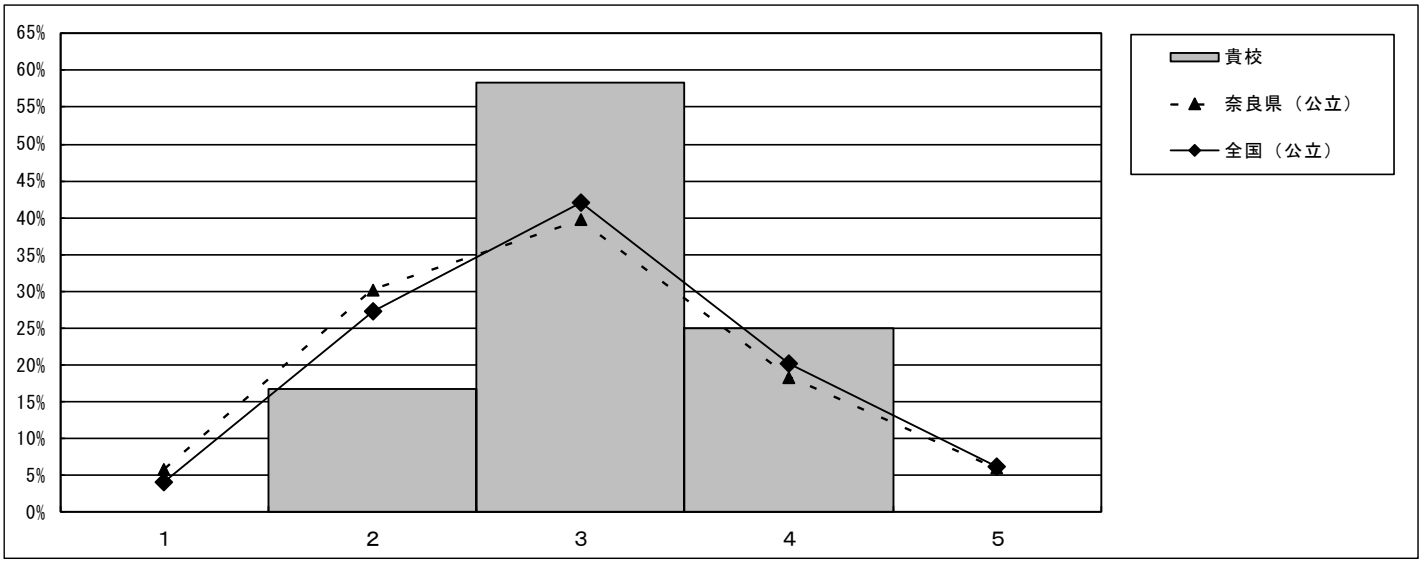


※中学校理科はIRTスコアで表示しています。

IRTとは国際的な学力調査（PISAなど）や英語資格、検定試験で採用するテスト理論です。全国平均が５００を基準に表示されます。

		本 校	奈良県	全国
理科	全体	535	492	503

IRT（Item Response Theory：項目反応理論）
児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。



３生駒市における、各教科の考察とこれからの課題

☆中学校国語

ほとんどの領域で全国および奈良県の平均正答率を上回っている。その中で「言葉の特徴や使い方に関する事項」について、全国と比較して0.3ポイント正答率が低くなっている。今回の調査では、ひらがなで書かれた字を適切な漢字に変換する選択問題で、文脈に即した漢字を正しく使うことに課題が見られた。また「読むこと」の領域で全国同様正答率が低かった。様々な情報から自分の考えを導きだせる力をつける取り組みが今後必要になると考えられる。

☆中学校数学

すべての領域で全国および奈良県の平均正答率を上回っているが、「数と式」の領域の問題にある「１から９までの数の中から素数を選ぶ」内容に関しては、正答率が6.7ポイント低くなっている。また、関数の領域の問題においても部分的に全国同様に正答率が低くなっている。事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかという、思考・判断・表現のすべての要素が求められる。国語と同様に様々な情報から考えを導きだし、表現する力が今後、必要になると考えられる。

☆中学校理科

今回の調査では、全員が回答する問題が６問、実施日によって異なる問題が４問、生徒ごとに異なる問題１６問の計２６問で構成、出題された。生徒ごとに異なる問題は、問題が非公開、領域全体の傾向についても公開されていない。ＩＲＴスコアをみると全体として全国よりＩ６ポイント高く、ＩＲＴバンド分布グラフからも５段階のうち３～４割の割合が高い。

４　本校における､各教科の考察から導かれる今後の課題

☆全体として

・小規模校において、経年変化の傾向は参考にしがたい面はあるものの、総合的に本校の平均正答率は、国語・数学・理科の３教科とも、奈良県や全国の結果より上回っている。今回の結果を受けて、学校における学習状況、家庭状況、生徒意識等との関連を考察しつつ、更なる結果向上に向けて指導方法を検討していきたい。

・今年度は国語・数学における各分野とも平均を大きく本校が上回っている分野が多い。しかし、国語では「言語」数学では「数と式」が他の平均正答率と比べて低い傾向にあるため、今後も授業や学びタイムや放課後の課外学習を利用して、常に既習内容を確認する学習を実施し向上を目指す。
今回、初めて実施された理科に関しても、回答状況を振り返り、さまざまな情報から、回答に結び付ける力をつける。

・

5 質問紙調査の結果抜粋

問題番号1

毎日朝食を食べていますか？	年 度	本 校	奈良県	全 国
	令和４年度	**８７．５**	**９０．４**	**９１．９**
	令和５年度	８２．６	８９．１	９１．２
	令和６年度	７９．６	８８．６	９１．２
	令和７年度	９１．７	８９．９	９１．２

問題番号5

自分には、よいところがあると思いますか。	年　度	本　校	奈良県	全　国
	令和４年度	５８．３	７３．５	７８．５
	令和５年度	７８．３	７７．９	８０．０
	令和６年度	７８．３	８０．７	８３．３
	令和７年度	**１００**	**８４．８**	**８６．２**

問題番号7

将来の夢や目標を持っていますか。	年　度	本　校	奈良県	全　国
	令和４年度	６２．５	６５．７	６７．３
	令和５年度	６５．２	６２．６	６６．３
	令和６年度	６９．６	６３．１	６６．３
	令和７年度	**５８．４**	**６４．２**	**６７．５**

問題番号9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	年　度	本　校	奈良県	全　国
	令和４年度	９１．６	９５．９	９６．４
	令和５年度	９１．３	９５．１	９５．５
	令和６年度	９１．３	９４．９	９５．７
	令和７年度	**１００**	**９５．３**	**９５．９**

問題番号35

学級の生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。	年　度	本　校	奈良県	全　国
	令和４年度	６６．７	６９．２	７８．７
	令和５年度	６０．８	７２．４	７９．７
	令和６年度	９１．３	８０．２	８６．１
	令和７年度	**９１．７**	**７９．２**	**８４．７**

問題番号40

「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。	年　度	本　校	奈良県	全　国
	令和４年度	４５．８	５３．６	７２．１
	令和５年度	６９．５	５７．０	７２．６
	令和６年度	７８．３	６９．６	８２．２
	令和７年度	**９１．６**	**６４．１**	**８９．５**

問題番号43

道徳の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。	年　度	本　校	奈良県	全　国
	令和４年度	５８．４	７６．０	８５．５
	令和５年度	７３．９	７８．４	８６．３
	令和６年度	９５．６	８６．２	９１．７
	令和７年度	**１００**	**８６．２**	**９１．５**

６本校における所見と考察

・基本的な生活習慣である、朝食･就寝時間等の項目において、全国・奈良県平均並みになっている。しかし、「毎日朝食を食べる」などの比率は今年度は全国・奈良県平均よりも高く、今後も、生徒・保護者ともに働きかけていく。

・「将来の夢や目標を持っている」に肯定的に答えた生徒も昨年に比べると低い傾向にある。今後は、日々の生活の中で生徒自身が選択したり、決定したりする場面を意図的に増やし、体系的・系統的なキャリア教育を段階的に取り組んでいきたい。

・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」は、全国・奈良県平均に比べて非常に高くなっている。今後も日々の生活の中で人権意識を高める活動や生徒会活動を活発化させながら、他人の立場を尊重しルールやマナーを守るといった規範意識に対する指導を続けて行っていきたい。

・「学級の生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができているか。」という項目は９１．７と非常に高い結果となっている。今後も他者の考えにも耳を傾け、深い学びへとつながるように指導していきたい。

・「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。という項目は、９１．６と割合が高い。自分が疑問に感じたことなどを調べ理解していくという流れを今後も大事にしていきたい。またそれぞれの考えを共有することで更なる深い学びにつなげていきたい。

▪「道徳の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。」という項目では、当てはまるの割合が１００と、非常に高かった。更なる協調性の向上にむけて今後も指導内容の充実を図っていきたい。

7 学習指導の指針

- ○ 基礎学力を定着させるため、文章を書く指導の大切さに留意する。
- ○ 解き方の指導だけでなく、考え方を大切にした指導を企てる。
- ○ 生徒が積極的に疑問を持つような問題提起を準備する。
- ○ 生徒が主体的に考える場面を設定し、考えたことを発表し交流する場面を設定し言語活動を充実させる。
- ○ 自らが計画・実践・検証・改善(ＰＤＣＡサイクル）をもとにした家庭学習を生徒に取り組ませる。
- ○ 教師自らが計画・実践・検証・改善(ＰＤＣＡサイクル）をもとにした授業改善に取り組む。
- ○ 各授業において、生徒に学習目標を分かりやすく示し、生徒の理解度や実現状況を常に把握しておく。
- ○ 知識や理解の学習に加え、主体的・対話的で深い学びを推進していく。
- ○ 生徒に学習成果を実感させ日常生活に生かしつつ、自尊意識を高めさせる授業を構築していく。
- ○ 自分で調べる場面でのICT活用だけでなく、自分の考えをまとめ、発表する場面でのICTの活用を行っていく。